

研修Ⅰ 後半 三豊・観音寺 児童が主体的に取り組み、確かな力を身につける国語科学習の創造
「世界に一つ、私の創作絵本『人物を考えて書こう』」（東京書籍3年）

1 提案の概要

(1) 主張点

- ① 楽しく主体的に国語の学習に取り組む児童の育成をめざす「世界に一つしかない」自分だけの物語を作る単元の構成と展開
- ② 系統的・累積的な指導及び領域間の関連の工夫
- ③ 児童の実態を考慮した多様な学習展開

(2) 具体的な実践

① 楽しく主体的に学ぶ学習指導の工夫

ア 想像をふくらませるための手立て

- ・ 登場人物に愛着や具体性をもたせる…挿絵の二人の登場人物に名前をつけ、性格・関係等の物語の要素となる観点を示して物語の展開（粗筋）を引き出す。
- ・ 人物関係を6パターンに固定化する…1枚目と4枚目の挿絵から登場人物の関係を6パターンに仮設定して、粗筋を考えさせる。
- ・ 人物の様子を表す観点を明確化する…会話・表情・視線・仕草・独り言・身体的変化

イ 想像したことを文章化する際の手立て…物語の進む方向を明確にして創作に取り組ませるが、児童の発達段階を考慮して途中で方向転換してもよいこととする。

ウ 個人差への配慮

- ・ 発想でつまずく児童に対して、友達との交流や教師と問答をする場の設定
- ・ 共働（同）的な学習…「サーカスのライオン」や学校図書館での様子を表す言葉集め

エ 達成感と充実感を味わい次への意欲を高める手立て

- ・ オリジナルの挿絵・表紙やペンネームを考えた「世界に一つの絵本」作品づくり
- ・ 作品の交流の工夫…感想を伝え合う交流会の設定

②系統的・累積的な指導及び領域間の関連の工夫…前学年で創作した作品から新たな課題意識をもたせる。前単元の「読むこと」と本単元「書くこと」が相互に補完し合う学習の展開

③児童の実態を考慮した多様な学習展開…基礎編→応用編（その1）→応用編（その2）と3パターンの学習展開を準備

2 成果

- 児童が様々なアイデアを出した「世界に一つしかない」オリジナル絵本を完成させたことで、書くことに自信をもつことができ、次なる意欲につながるものになった。
- 文章を書くことが嫌いという児童が減少し、文章を書くのが楽しいという児童が増加した。
- 様子を表す言葉を入れて日記や作文を書くなど分かりやすい文章を書くように心がける児童が増え、書く力に伸びが見られた。

3 課題

- 常に読み手を意識して物語を書き進めるための構成メモ等を取り入れた作品づくり
- 読み手を引きつけるおもしろい物語にするために、どこを詳しく書きどこを簡単に書くのかを考えた物語作り
- 児童の興味・関心や書く力の程度によって、子どもたちが学習方法を選択できる学習構想